

2024年度「公益財団法人 柿田川みどりのトラスト」事業報告書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1. トラスト事業（公1）

（定款第4条(1) 柿田川湧水群流域の土地等の取得、借上げ及び管理）

（1）土地の買収、借上げ

ア. 買収 土地の新規買収

- ・新規 なし

イ. 借上げ

対 象 地	面積 (㎡)	価格 (千円)	単価 (円/㎡)
・継続			
清水町柿田小字柿添 51-1, 52-2, 3, 53-1	905	150	166
・新規 なし			

（参考—既買収地 5532.12㎡）

対 象 地	面積 (㎡)
1号地. 清水町堂庭字広フケ 23	191.00
2号地. 清水町堂庭字広フケ 38	985.70
3号地-1. 清水町柿田字川端 79-1	230.04
3号地-2. 清水町柿田字川端 79-2	646.69
4号地. 清水町堂庭字大宿 48-1	299.00
5号地. 清水町伏見字泉 85-2	520.00
6号地. 清水町堂庭字広フケ 24	670.76
7号地. 清水町堂庭字広フケ 35	894.88
8号地. 清水町堂庭字大六天 14-1, 2	273.83
9号地. 清水町堂庭字大六天 16, 17-18	139.00
10号地. 清水町堂庭字大六天 17-15	158.00
11号地. 清水町堂庭字大六天 20	390.00
12号地. 清水町堂庭字大六天 14-3 他	97.22
13号地. 清水町堂庭字大六天 17-59	36.00

ウ. 管理 2. (6)を参照

（2）トラスト及びその他の公益事業推進のための募金活動

ア. 寄附金の受付

- ・領収書及び礼状、新聞の発送
- ・寄附者の名簿の作成
- ・寄附状況の集計及び公表（毎月1回）
- ・寄附金合計が約1億5千8百55万円（約49万円増）になった。

イ. 街頭募金活動

- ・柿田川公園にて計10回（4月14日、5月12日、6月9日、7月21日、8月3日、9月15日、10月13日、11月10日、12月15日、3月9日に）実施。

2. 環境保全事業（公2）

（定款第4条(2) 柿田川湧水群及び流域の環境保全活動）

（1）種の保存活動

ア. ミシマバイカモの保存

- ・アシ及びオオカワヂシャ及びノハカタカラクサ等の除去（外来種除去）

ミシマバイカモの生育の為に、日照を阻害するアシ及びオオカワヂシャ及びノハカタカラクサ等の除去を国交省、清水町、業者、一般ボランティアの協力を得て、年16回実施した（4月27日、5月11日、5月25日、6月8日、6月22日、7月13日、7月27日、8月10日、8月24日、9月14日、9月28日、10月12日、10月26日、11月23日、12月21日、3月22日）。2017年度以降、生育が速い時期は月2回除去した結果、良好な環境を実現できたはずだが、残念ながら2024年度はミシマバイカモの生育面積は期待したほどは増加していない（詳細は3(2)参照）。また、月2回の除去では取り切れないところについては、国土交通省が業者に依頼し、その場所や優先順位についてはトラストが指示した。

- ・ミシマバイカモの移植

上流部の生育状況を見て、外来種除去作業後にミシマバイカモの種を上流部へ適宜移植した。

イ. ナガエミクリの保存

- ・ナガエミクリの日照確保

トンボ調査時に中流左岸の樹木の枝を切り、ナガエミクリの日照を確保した。

- ・ナガエミクリの保存

教材園周辺のナガエミクリを保護するために、ナガエミクリを切らない様に申し入れている。また川の整備をするときにはトラストのメンバーが立ち会う。

- ・ナガエミクリの移植

国土交通省が試していたので、トラストとしては上中流部への移植は実施せず。

- ・コカナダモの除去

7月27日に8名、8月10日に9名、8月17日に4名、8月24日に8名が参加し、工業用水取水場周辺に大繁茂したコカナダモを除去した。

ウ. ホトケドジョウ、トンボ類、ホタル類のための環境整備

- ・中流左岸のビオトープ近辺のカサスゲを除去し、トンボ類の繁殖環境を整備した。また、ヘイケボタル、ゲンジボタルの繁殖環境を整備した。

エ. アユ産卵の環境整備

舟付場にあるアユの産卵床は礫も出現しており水深も深いので、今年は整備不要と判断した。

オ. ナガエツルノゲイトウの除去

特定外来種ナガエツルノゲイトウの除去を国交省主体で行なっているが、未だに生育を確認している。繁茂場所は変わっていないが根絶に苦戦。陸上で渴死させる方法をとった。

カ. 竹林整備

公園内竹林の拡大を防止するため、5月4日2名で50本、5月11日8名で17本の古竹、若竹、タケノコの伐採を行ない整備したが、例年よりも回数が少なかったためか、孟宗竹の本数が増えた印象がある。

（2）柿田橋周辺の環境美化保全活動

2024年8月25日と翌年3月20日に柿田橋周辺のゴミを拾い環境美化を実施した。

(3) 清水町よりの受託事業

清水町受託事業として柿田川監視パトロール活動について数名が委託を受け、延100回／年の巡視活動をした。

(4) 柿田川周辺の巡視活動((3)を含む)

平日は2～3名、土日・祝日は数名が巡視した。

(5) 標識・看板等の維持・管理

買上げ地に付けた番号を記した看板のデザインを検討し、見積をとった。会員の合意・了承を得た後で発注する予定。

(6) 買上げ地の整備

外来種除去作業の際に、対象地の外来種を除去し、一部をビオトープにしている。

(7) 流域周辺の整備

国道1号法面対策については、公園内の土の利用を検討したが、天然記念物や文化財の対応について、工期内の対応が難しいため、今年度工事では、歩道と公園との境界にアスカーブ（縁石）を設置して水の進入を軽減し、2次災害を防ぐ対策を2月に実施した。また、崩落箇所への対応については、監視は引き続き実施しつつ、早い段階で対策を実施できる様に調整することにした。

3. 調査研究及び情報収集事業（公3）

(定款第4条(3) 柿田川湧水群及び流域の自然環境保全及び活用に関する調査研究並びに情報の収集)

(1) 柿田川の水質調査

4月15日、10月8日、第一展望台下湧水口で実施。今年度から年2回に変更した。

かつて問題になった塩素系有機溶剤は検出されず水質は良好。ここ数年、最上流部の湧水口から大腸菌が時折検出されていたが2022年度から2024年度にかけては10回の検査で全く検出されず良好。一般細菌は4月15日には1個/mL検出されたが、10月8日には検出されなかった。BODは、2024年1月18日には0.5ppmだったが、4月15日には0.5未満、10月8日には0.7で0.7以下を保っている。

(2) 動植物調査、その他一般調査の実施

・野鳥調査 2024年度は11回実施（4～3月）。

4月21日に23種、5月18日に23種、6月15日に16種、9月16日に15種、10月19日に24種、11月16日に24種、12月15日に24種、1月19日に32種、2月11日（野鳥観察会）に31種、2月23日に28種、3月30日に24種の野鳥を確認した。

・ミシマバイカモ、ナガエミクリの状態調査

8月25日と9月8日に行なった動植物調査では、ミシマバイカモの生育面積は1903㎡で、前年比54%（671㎡）増、ナガエミクリは2150㎡で前年比17%（445㎡）減だった。

ミシマバイカモの1903㎡は、2003年と同水準である。近年、上流部、中流部は4月から10月にかけて、行政も参加してオオカワヂシャを月2回ずつ除去する外来種駆除の効果が出て、オオカワヂシャの繁茂は抑えられ、ミシマバイカモにとっては良好な状態であるはずだが、2003年と比較すると上流部での減少が目立つが、昨年の328㎡から615㎡と287㎡増加した。これは、水に親しむ集いの人数制限等の保護策の成果だと思われる。ただ、2021年の5386㎡と比較すると3483㎡減少しており、外来種除去の際には、ネットは抱えて運び、川の中を引きずらないこと、また、運ぶ際には川の中のミシマバイカモを踏まないことを徹底するとともに、水に親しむ集いの人数制限等の保護策を継続したい。国交省沼

津、清水町、リバーフロントの職員、ボランティアの方々、当会会員の地道な努力に感謝するとともに、来年以降も引き続き外来種除去の継続をお願いしたい。

ナガエミクリは2013年以降、大体1000㎡前後で推移していたが、2021年以降は2037㎡、2031㎡、2595㎡、2150㎡となり、2000㎡以上を維持している。最も多かった1997年の3220㎡の約67%である。2023年と比べると特に下流部が減少しているが、これはコカナダモの大量増殖が影響していると思われる。今後もコカナダモには注意が必要である。

・トンボの調査

アオハダトンボは2024年度も残念ながら1頭も確認できなかった。数量的にいても絶滅と思われる。原因は異常高温、産卵・生育環境の悪化が考えられる。現在実施中の川への入場制限を継続すると共に、ナガエミクリの生育を促し、産卵・生育環境の改善を続ける。

ハグロトンボは8月25日、9月6日の調査では50頭で2頭増だった。

アサヒナカワトンボは無色型が40頭で7頭増、橙色型21頭で2頭増、計61頭で9頭増だった。今回は8月25日調査時に雷及び雨雲接近により中流部迄で中断し、9月6日に中流部から再開して調査を行なった。アサヒナカワトンボは他月では300頭を超える月もあり、アオハダトンボ以外は問題なしと判断している。

- ・国土交通省と合同でトンボ類の調査を実施した。上流から下流まで調査し、4月22日は2種64頭、5月21日は5種300頭、6月24日は10種359頭、7月22日は12種206頭、8月25日及び9月6日は10種487頭、9月30日は9種540頭、10月31日は5種188頭、11月18日は2種45頭だった。
- ・産卵アユの調査 狩野川から入ってきた10月下旬から産卵が終わった11月上旬迄、毎週調査したが、黒潮の蛇行のせいか今年度もアユの遡上が少なかった。大型のアユが多かった。
- ・絶滅危惧種のウツセミカジカは2016年度以降、毎年、生息を確認。
- ・絶滅危惧種のアユの産卵観察会 22名参加。

(3) (公社) 日本ナショナル・トラスト協会第42回全国大会

12月7日、全国大会が開催され当会からは10名が参加した。「ダーウィンが来た！」の裏話が聞けて有意義だった。

(4) 柿田川生態系研究会(国土交通省主催)への参加

2024年度は開催されなかった。

4. 普及啓発事業 (公4)

(定款第4条(4) 柿田川湧水群及び流域の良好な自然環境及びその保全活動に関する普及啓発)

(1) 自然観察会の開催

- ・4月7日(日)、春の観察会 5家族16名参加。
晴れて観察会日和となり例年通り合流点から第一展望台まで歩いて観察した。
- ・7月28日(日)、水に親しむ会 20家族61名が参加。
柿田川を理解できると大好評だった。加和太建設から飲み物差し入れ、保冷パックの寄付、オオカワヂシャ回収の協力があつた。
- ・8月11日(日)、夏の観察会 14名参加。
南海トラフ地震注意で不参加者あり。例年通りの動植物が観察できたが、猛暑だったので、今後は日時やコースを検討したい。
- ・8月17日(日)、県主催 富士山の恵み柿田川自然観察会 20家族81名参加。
盛況。水に親しむ会と同様にミシマバイカモへの影響を減らす為、参加者を例年より減らした。
- ・12月1日(日)、アユの産卵観察会 22名参加。

当日、舟付場にアユの遡上は無く、産卵を観察できなかった。

- ・ 2月11日（火、祝）、野鳥観察会 20名参加。
風もなく晴天に恵まれた観察会で、31種を確認した。ツグミ、シメが見られなかった。

(2) 研修会（学習会）の開催

- ・ 新型コロナウイルスの影響で、昨年に引き続き、今年度も中止した。

(3) ライブラリーの整備

- ・ スライドの整備、撮影した写真の整理を行った。また、各種行事、動植物、柿田川に関連するテレビ番組の放映の録画を行った。

(4) 普及啓発誌の発行

ア. 「柿田川だより」の発行 4月、7月、11月の3回 各500部
賛助会員、友好団体、関係官庁、学校、図書館等に配付。

イ. 新聞「柿田川」の発行 年1回発行（1月） 5,000部
賛助会員、友好団体、自然観察会参加者、関係官庁、学校、図書館等に配付。
また、地域住民、街頭募金者にも配布。

(5) 図画映像の制作・普及

ア. DVDの制作・普及

創立20周年事業として柿田川自然保護の会と協同制作したDVD第1版に続き、DVD第2版の製作のためのコンテンツ収集は完了し、編集作業を実施しているが、ヤマセミ、アオハダトンボ以外にも、ホトケドジョウ、ゲンジボタル、カヤネズミなど、生息状況が撮影時とかなり変わってしまった点があるので見直し中。

イ. 絵葉書（「清流柿田川」、「柿田川と四季の富士山」）の普及（販売）

今年度は増刷なし。新型コロナウイルスの影響で販売は激減し、「清流柿田川」を34部、「柿田川と四季の富士山」を35部販売し、各1部ずつ贈呈した。

(6) 説明板の設置・補修

2024年度は補修が不要だったため補修せず。

(7) インターネット上の柿田川ホームページ拡充

柿田川の概要説明、トラスト会員募集、活動状況、行事予定等を掲載し、柿田川の自然保護を訴えるインターネットのホームページを拡充・活用し、適宜、内容を更新している。

(8) フェイスブックページの拡充

柿田川の動植物、景色、活動予定、活動の様子を画像・文章で紹介しボランティアも募集。

(9) 柿田川の案内・説明

- ・ 6月9日、東葛しぜん一行25名が来訪し、会員5名で説明・案内を行なった。
- ・ 11月23日、富士通沼津労組20名がウォーキングイベントの一環として来訪し、会員が説明・案内を行なった。

5. 湧水量及び流量の維持向上事業（公5）

（定款第4条(5) 柿田川湧水群の湧水量及び流量の維持向上）

（1）柿田川の流量調査（於・柿田橋上流30m地点）

- ・8月25日、100.2万トン/日（前年同時期より0.7万トン増加）

上記流量に上流の飲料水、工業用水汲上量（17.0万トン）を加算すると湧水量は117.2万トン/日（前年同期比1.9万トン増加）だった。過去5年平均は124.6万トン/日、過去10年平均は120.4万トン/日なので、過去平均より3～7万トン/日少ない。

- ・3月20日、92.2万トン/日（前年同時期より4.4万トン減少）

上記流量に上流の飲料水、工業用水汲上量（16.7万トン）を加算すると湧水量は108.9万トン/日（前年同期比4.1万トン減少）だった。過去5年平均は116.5万トン/日、過去10年平均は114.1万トン/日なので、過去平均より5～8万トン/日少ない。

（2）水源地植樹

ア. 「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」の活動への参加

漆畑会長が代表幹事として、他2名が幹事として連絡会の活動に参画した。

イ. 柿田川地下水源の涵養林育成（アの活動の中の打ち合わせ以外の活動）

【新規植樹（補植）】

- ・4月29日の植樹は参加者204名で、大苗100本は区画4に、小苗200本は鹿網内に、更に集合場所に大苗4本、合計304本を植樹した。高校生80名が参加し、大苗搬送とシカ網張り直しを行なってくれた。
- ・12月6日、清水町地域交流センターにて柿田川・東富士の地下水を守る連絡会幹事会を開催し、今年度の事業報告と会計報告を行なった後、来年度の植樹計画を策定した。

【既存の植樹地の保全及び地ごしらえ等】

- ・4月5日に植樹の事前打ち合わせを行ない、各団体参加者見通し、作業手順などを確認した。
- ・8月2日に柿田川・東富士の地下水を守る連絡会を開催し、下草刈り、防護柵補修、どんぐり拾いなどの今後の予定と来年の植樹地などを検討した。道路がえぐれて補修が難しいため当初予定していた区画5をやめて区画1で植樹することにした。
- ・9月21日、区画4の草刈り、区画2のシカ網内の草刈り、区画4のシカ網撤去を行なった。
- ・1月19日、沼津市大平政戸地区(狩野川左岸河川敷)にて、苗木支柱用の竹を400本と、小苗支柱用の竹200本、かつぎ棒用の竹50本を作成し、植樹範囲を示す為の竹を伐採した。
- ・2月1日、15名で植樹用大型苗木60本を根巻きした。
- ・2月15日、17名で植樹用大型苗木40本を根巻きした。
- ・3月23日、苗上げ（大苗97本と小苗180本）と地ならしを実施。区画1と2の境に大苗を仮植えし、区画5のシカ網内に小苗を植えた。区画5のシカ網の張り替えを沼工山岳部生徒に行なってもらった。今年の予定は区画5だったが、道が悪いため区画1に変更する。

【富士山麓に植える苗木を育てる為のどんぐり拾い】

- ・10月20日に第1部どんぐり拾い、第2部沼工山岳部のガイドによるハイキングの2本立てで行なった。37名の参加があり、ブナやミズナラのどんぐりは豊作だった。

6. 行政・他団体との協力・連携事業（公6）

（定款第4条(6) 行政及び他団体との協力及び連携）

（1）国土交通省との共同事業

- ・国土交通省(沼津河川国道事務所)との連絡会

2024年度は開催されなかった。

- ・柿田川自然再生検討会、柿田川シンポジウム

柿田川自然再生検討会が1月23日に開催され、日陰を減らして、アオハダトンボが一時期増え始めた頃の状況に戻す。ナガエツルノゲイトウ撤去に遮光シートを使うこと等を検討した。

(2) 清水町柿田川公園検討委員会への参画

- ・2024年度は一度も開催されなかった。

(3) 柿田川を語る会への参画

- ・5月22日、清水町主催の語る会が開催され3名が出席した。若い参加者からは貴重な自然環境を損なうこと無く遠くから観察すべきとの意見が出た。保護を前提とした意見が出たことから、外来種除去作業参加の打診を具申した。
- ・7月26日、開催され3名が出席した。大方のメンバーは保護を主体とした方向で意見がまとまっていたが、商工会のメンバーは経済的な効果を期待したいという意見だった。
- ・10月24日、フリートーク形式で行なわれた。
- ・1月30日、今までの発言を4つに分類してまとめたものが配付された。大方の意見は後世に残す様な発言だった。今後どのようにして行きたいのかが分からない会だった。

(4) その他の協力・連携

ア. ふじさんネットワークへの参加

- ・6月15日、総会が沼津プラザヴェルデで開催され、2023年度事業報告/決算、2024年度事業計画/予算等の審議・承認が行なわれた。
- ・10月13日、25周年記念シンポジウムが富士ロゼシアターで開催され、2名参加した。
- ・3月15日、幹事会が沼津プラザヴェルデで開催され、2024年度事業報告、決算、2025年度の事業計画、予算等が報告された。25周年記念エコバックが配布された。

イ. 日本ナショナル・トラスト協会理事会・総会等

- ・5月30日、第1回理事会が行われ、事業報告、決算、予算変更について決議が行われた。
- ・6月14日、総会が開催され、2023年度事業報告、決算、2024年度予算が承認された。
- ・3月10日、第2回理事会が行われ、2025年度事業計画、予算を審議した。

ウ. マスコミ取材等への協力

- ・新聞・雑誌、テレビ、ラジオの報道の取材に対し、報道の中で自然保護を訴えた。
(NHK大阪、テレビ朝日、TBSテレビ、日本テレビ、読売新聞、静岡新聞、中日新聞 他)

エ. 柿田川公園保全（湧水保全の会主催）

- ・7月21日、約200名が参加。清水町、湧水保全の会との共同作業。当会5名参加。
- ・3月15日、約200名が参加。清水町、湧水保全の会との共同作業。当会4名参加。不要な伐採等行われないう注視しながら作業を行なった。

オ. 2号排水路ヒューム管撤去

- ・8月25日に、2号排水路ヒューム管から汚水が柿田川に流入して川底が見えなくなる状況が10時間以上続いていたことが判明したので、ヒューム管の撤去は行なわなかった。

カ. 湧水祭への参加

- ・8月3日に開催され、当会は、柿田川自然保護の会と共に、パネル展示、動画放映、クイズ、募金等を行なった。

キ. 他団体による外来種除去作業

- ・ 9月7日に、ロータリークラブ及び関係者90名が外来種除去作業を行ないたいとの申し入れがあり、会員立ち合いの下、30名単位で川でのオオカワヂシャ除去、ノハカタカラクサ除去、散策を分散して行なった。

ク. 環境審議会

- ・ 10月29日、3月に町の環境基本条例が制定され、環境基本計画を策定するために検討委員会を設置して検討することになった。当会から1名参加。任期は2年。12月にパブリックコメントを募集した。
- ・ 1月27日、町の環境基本条例に基づき環境基本計画を策定し、2月の審議会で前清水町議会議長が議長を務めて最終確認を行ない、町長に答申した。

ケ. 意見交換会

- ・ 1月23日に静岡森林管理署、林業関係団体が参加した、基本管理計画の見直しのための意見交換会が開催された。静岡森林管理署からの説明がほとんどだった。

7. その他目的を達成するために必要な事業

(定款第4条(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業)

(1) トラストに対する税制優遇の推進

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会が環境省、自民党に働きかけているが、実現していない。

8. 法人管理

(1) 賛助会員募集

ア. 賛助会員募集

柿田川新聞やホームページ等で賛助会員を募集。現在、賛助会員数は団体5、個人は187名。5年以上会費の納入がない33名は退会とみなすことにした。なお、ネット決済サイトからの入会者は3名だった。

イ. 賛助会員、募金者への対応業務

募金者と法人会員に対して、領収書及び礼状、新聞、柿田川だよりの発送を行っている。本年度に会費を納入したのは、個人は126名。団体は2団体だった。なお、クレジット決済による賛助会費納入者は11名だった。

(2) 評議員会・理事会の開催

ア. 事務局会議（清水町地域交流センター）

- ・ 5月11日（土）18:00～18:45 2023年度事業報告、決算報告の内容確認を行なった。
- ・ 3月8日（土）18:00～18:30 2025年度事業計画書、予算を検討した。

イ. 理事会（清水町地域交流センター）

- ・ 5月23日（木）19:00～21:00
2023年度事業報告書および決算報告の審議・承認を行なった。
- ・ 7月13日（土）19:50～20:40
業務分担について話したがまとまらず、下谷理事が案を作るようになった。

- ・ 1 1 月 9 日（土） 18:00～19:00 業務執行理事の執行状況報告及び半期決算報告を行なった。
- ・ 3 月 2 0 日（木、祝） 18:00～19:00 業務執行理事による執行状況報告を行ない、
2 0 2 5 年度の事業計画書、収支予算等の審議を行ない、承認した。
- ・ 理事懇談会を毎月、計 12 回開催した。

ウ．評議員会（清水町地域交流センター）

- ・ 6 月 8 日（土） 18:00～19:00

2 0 2 3 年度事業報告書および決算報告の審議、承認、及び、理事、監事任期終了に伴い、継続、交代を含めた承認を行なった。

(3) 事業計画書・予算、事業報告書・決算の作成

5 月の理事会、6 月の評議員会に向けて、5 月 1 1 日（土）事務局会議で 2 0 2 3 年度の事業報告書・決算を作成し、5 月 2 0 日（月）決算、事業報告の内部監査を行なった。3 月の理事会に向けて、3 月 8 日（土）事務局会議で 2 0 2 5 年度の事業計画書・予算の検討を行なった。

(4) 行政庁への報告・届出書の作成

指定された期日までに滞りなく報告・届出書を作成した。

- ・ 2 0 2 3 年度の事業報告書・決算は、2 0 2 4 年 6 月 2 6 日に県に提出した。
- ・ 2 0 2 5 年度の事業計画書・予算は、2 0 2 5 年 3 月 3 1 日に県に提出した。

以上